

# 綾井南海住宅自治会のあゆみ

綾井南海住宅は開発以来すでに四十五年の年月を経ており、昔を知る人もだんだん少なくなってきました。この四十五年の変遷の跡をたどり「綾井南海住宅自治会のあゆみ」としてできるだけ多くのことを集めて、会員皆さんに供覧し、またお互い自治会の認識を深めたいと考えて企画しました。今回は当住宅第一期に入居され防犯灯などいろいろ御苦労頂いた二班の松浦寛子さんと、当時の状況、その後の変遷などの詳しい方々からいろいろお聞きし又貴重な資料を借用してまとめました。たまたま子供会関係の保存記録も発掘され、随所に参照しました。また「高石市史」や「広報たかいし」などを紐解いて補足しました。

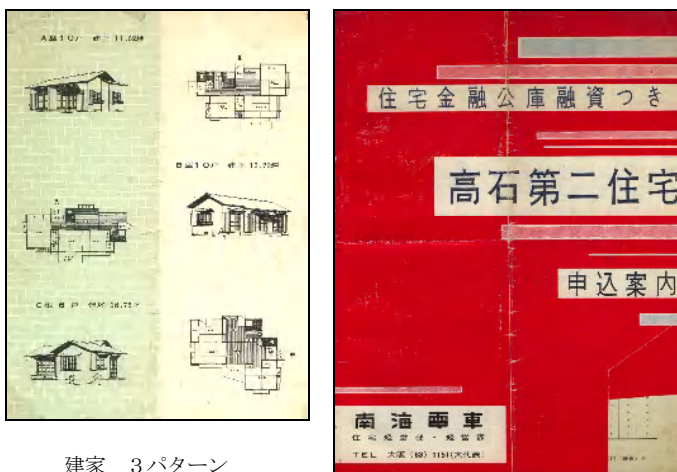
なにしろ昔のことでもあり随所に思い違いや偏見や想像創作など危惧しておりますが、どうか皆さんからの「指摘をいただきたく、また昔の時々々の出来事とかまた資料とか写真とか」ご提供を頂ければ幸いです。皆さんのご支援でより充実した変遷の物語りになることを願っております。

(編集 田中)

## 一、綾井南海住宅は昭和三十四年に発足しました

綾井南海住宅の発足は昭和三十四年の昔に遡ります。南海電鉄は昭和三十三年の駅前綾園地区の開発に引き続いて、当綾井南海住宅開発をしました。昭和三十四年当時はこの地域は大字「綾井」と呼ばれていたもので、綾井の名前を冠して綾井南海住宅と呼ばれる事になりました。昭和三十四年八月には第一期四十八戸の分譲、さらに同年十二月には第二期五十戸の分譲が行われ、計九十八戸の新興住宅団地として産声を上げました。

以下は当時の南海電鉄の貴重な分譲パンフの一部です。(喜多村さんご提供)

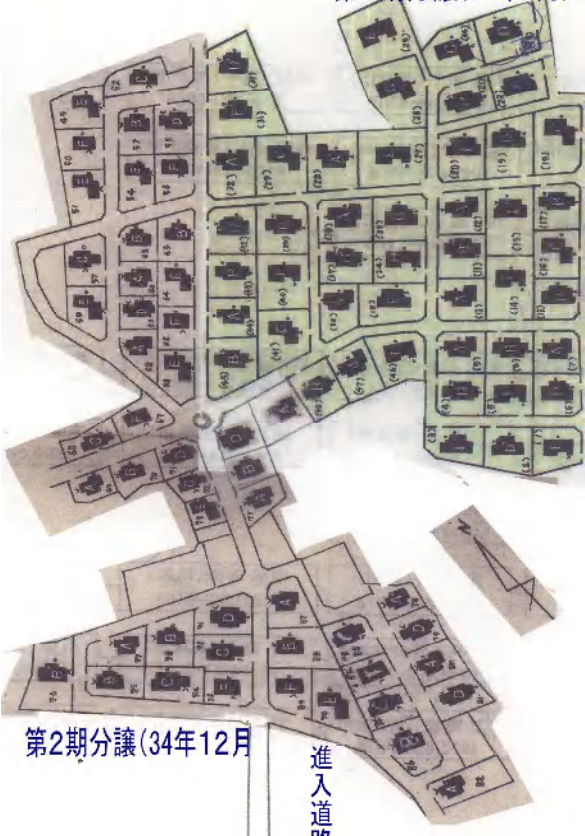


建家 3パターン

## 綾井南海住宅地区

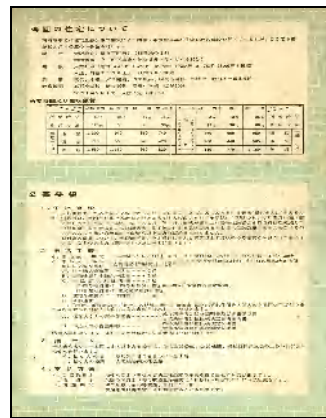
### 昭和34年当時 分譲配置図

#### 第1期分譲(34年8月)



#### 第2期分譲(34年12月)

進出道



公募案内/電車ナンバまで60円

各戸の土地広さは70坪〜120坪、30m<sup>2</sup>〜400m<sup>2</sup>、建家はすべて木造平屋建、建坪は14坪〜23坪(46m<sup>2</sup>〜76m<sup>2</sup>)の5種類のタイプに統一されていました。

当時は高石町(人口約34000)は田畑の広がる町でしたが、当地域一帯も田畑地や雑木林・竹林や湿地池であつて、付近には高石浄水場の一画と府宮綾井共同住宅が広がっているだけでした。

周辺はまだまだ田園の環境のままです。

路にはザリガニ、メダカ、ドジョウ、カエル、トンボ、、、がいっぱいでした。初夏には蛍が飛び交う風情でした。庭先からは南海電車はもろろんのこと、阪和線の電車も遮るものがなく見通せられたとの事です。

左の図は第一期(草色部分)、第二期(茶色部分)を合わせた分譲当時の配置図です。住宅地には府道から現在の住居表示板に通ずる道が唯一の道路となっており、地域内の五差路にはロータリの広さが確保されていました。区域の周辺は土手道か農道道でした。

当初の班呼称は南東角から反時計回りに一班から十二班へと名付けられた。

日々の買い物は本町通りや高石駅付近にはいくつかの商店があつたが、住宅内には生

鮮食料品などの行商人が頻繁に出入りしておつて、生活用品の大半をまかなうことができたとのことです。

綾井南海住宅区域には公園はありませんでした。現在の公園の土地は、当時は個人の所有地で、空き地となつており子供の格好の遊び場でした。市管理地となりちびっ子広場として整備されるのは五十年後半になつてからです。

## 二、自治会活動の原点は 防犯灯の整備です

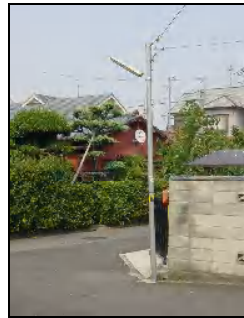
初期の住宅地は、まだまだ生活環境に不備なものがあつました。とりわけ夜間照明の不足が痛感され、防犯灯を設置しようという気運が盛り上がりました。この事業の推進に当たつては同時に隣近所と顔見知りになり問題意識の共有することとなり連携の輪が急速に広がることになりました。当時はまだ自治会の形式ではないが、初期のボランティア自治会の誕生であり、後日の正規の自治会活動の源流になりました。

この防犯灯設置の運動は、喜多村(俊子さん父君)さんや松浦さん(会計)が中心になつて推進に当たられました。

地域内の会合を重ねながら、また南海電鉄や町当局や関西電力と折衝に当たられ難しい問題を克服して、ようやく地区内に防犯灯の明かりが点ることになりました。

現在ロータリに高々と聳える大型外灯は当地区を象るシンボルタワーでもあります。当時のことで、朝夕には近所の人に点灯ス

イッチをお願いしていたとのことです。会計係松浦さんは各所帯から月二十円を徴して防犯外灯代経費を運営しました。



現在の防犯灯はすべて自動点滅の蛍光灯タイプ、この四十五年間には増設・変更やまた電柱取付型が増え、現在総数六十基を数えています。

現在自治会として関西電力に支払う電灯代は年間約十八万円、修理代約四万円ほどですが、隔世の感です。

このように防犯灯を軸として隣近所との交流が深まりボランティア自治会活動の核が形成され逐次整備されながら、綿々と今日に繋がっています。

## 三、広報紙「たかいし」の各戸配布が 始まりました(昭和三十七年九月)

昭和三十七年、高石町では広報「たかいし」の発行が始まりました。当地域では正式の自治会は未整備だったが、町から一括受理して各戸への配布する業務が始まり、隣近所の連携を深める大切な役を果たしました。これも自治会活動の源流の一つでした。

因みに三十七年以降「たかいし」は毎月発行、本年十月には500号の大台に達しております。

## 四、住居表示が制定されました

(昭和四十年十二月一日)

高石町は昭和四十年十二月、都市化の進展に伴い町内一斉に旧来の大字表示を廃し新しく町名の制定を行うことになりました。当地区一帯は、現在の綾園も含む広い地域の大字綾井の一部であつたが、当住宅区域は毎日放送送信所の鴨池、府営綾井共同住宅や水源地一帯は小字「カモ」とも俗称されていたが、正式に漢字表現もまとめて「加茂」を呼称することになりました。地区名設定と同時に各戸ごとに住居番地表示を定められました。

従来の住居番地表示は土地地番の分筆表示で煩雑・不便であつたが、新しい住居番号表示でこれが解消されました。因みに三十四年当時の南海電鉄分譲パンプでは次のように表示でした。

「大阪府泉北郡高石町綾井二八六番地番地の一他」

## 五、「綾井南海住宅自治会」が正式に 認定されました(昭和四十一年)

昭和三十七年、高石町ではすでに自治会連合会が発足しており、自治会未整備の当地域には広報紙「たかいし」の各戸配布のなども含み、年来自治会設立の話が続いてきたが、昭和四十一年五月「綾井南海住宅自治会」として正式に発足、高石町より認定されました。

初代会長岡原進氏を選出して自治会の態勢を整えいわゆる自治会活動を開始しました。以降当自治会の発展に尽力頂いた歴代会長を紹介いたします。

会長名敬称略 選出年

|      |       |             |
|------|-------|-------------|
| 初代   | 岡原勝   | 昭和41年(1966) |
| 第2代  | 喜多村文雄 | 43年(1968)   |
| 第3代  | 橘 淳一  | 45年(1970)   |
| 第4代  | 奥 進   | 46年(1971)   |
| 第5代  | 佐藤周夫  | 47年(1972)   |
| 第6代  | 南出浩造  | 48年(1973)   |
| 第7代  | 井上宗次  | 49年(1974)   |
| 第8代  | 杉山正見  | 50年(1975)   |
| 第9代  | 高柳勝三  | 51年(1976)   |
| 第10代 | 本田新一  | 52年(1977)   |
| 第11代 | 永田 久  | 53年(1978)   |
| 第12代 | 南 秀味  | 54年(1979)   |
| 第13代 | 小林 峻  | 55年(1980)   |
| 第14代 | 福原 保  | 56年(1981)   |
| 第15代 | 上永建設  | 57年(1982)   |
| 第16代 | 新井 正準 | 58年(1983)   |
| 第17代 | 新妻 鎮雄 | 59年(1984)   |
| 第18代 | 野村 建一 | 平成2年(1990)  |
| 第19代 | 舩谷 隆康 | 9年(1997)    |

### 六. 学区制の変遷と子供数

高石では昭和三十〜四十年代、特に南海本線と阪和線に挟まれた地域の宅地開発が急速に進み急激な人口増、児童数の急増に対応するため新設校の開校が必要になりました。

当自治会区域でも住宅開発が加わり、所帯数・会員数も当初の倍近くまで膨らみました。

当自治会では、児童は当初は線路を越して歴史も古い町内唯一の高石小学校に通っていたが、昭和四十二年清高小学校の新設開校に伴い清高小学校の校区に変わり、さらに五年を待たず昭和四十七年には加茂小学校が開校して、加茂校区に変わり、今日に至っております。中学校も当初は高石中学校の校区であったものが、昭和四十八年取石中学校の開校に伴い校区の変更となりました。

なお、時代は移って五十年後半から児童数は減少に転じます。因みに加茂小学校の児童数の推移を見ると、五十七年(1198名)から平成三年(890名)と25%の急減を見ることになりました。

### 七. 子供の発足(昭和六十一年)

(資料、写真など杉谷さんご提供その他子供会の保存記録等を参照しました)

当自治会でも昭和四十年〜五十年代には子供数は60〜70人(3才以上小学生)まで増えました。当時は子供さんたちがたく

さんいました。子供さんを持つお母さんたちの繋がりが増えて、地区の子供たちが集まっていたり子供会の活動やイベントを推進し、子供さんたちの健全な育成を役立つことを願いながら、子供会を発足させることになりました。

昭和六十一年八月、「綾井南海住宅 子供会」は自治会と連携を保ちながら、別組織別会計で、会長に中川さん(1B班)、副会長に野村建一さん、会計に杉谷さん、役員に本崎さん、城本さん、丸山さん、橘さんの構成で発足しました。

子供会の若いお母さんたちは知恵を出し合い積極的に活動を開始しました。新しい企画がどんどん生まれました。この子供会の数々の活動は地区の自治会活動の活性化に繋がりました。現在自治会の恒例のイベントとして定着しているものがこの時期に形作られました。以下は当時の「子供会」の活動記録の一端です。

#### 【恒例のイベントなど】

##### ① ラジオ体操を始める

昭和六十二年以降、夏休み前半後半各一週間開催しました。

子供用の景品をそろえました。

##### ② 夏休み夜店を開催

昭和六十二年以降、夏休みの最終の土曜日の夕方に開催しました。お母さんたちは大阪松屋町まであてものやおもちゃなど景品の買い付けに奔走しました。

##### ③ みんなで考え、廃品回収を始める

昭和六十一年十二月、毎月一日を回

収の日と決め廃品回収始めました。

わずかなお金でも子供会の足しになればと、野村副会長、杉谷会計は当時の自治会会長の新妻さんに「相談に行き、「大した金額にはなりませんがよわすかですよ」と云われながらも、月末には外部の喫茶店などにも自転車で集めに行ったりして、廃品を集めました。わずかなものでしたが積み積もれば、子供会の資金が大助かりとなりました。

廃品回収は、現在「資源ゴミ回収」として引き継がれております。平成四年高石市「有価物集団回収奨励制度」発足にしたがい集団回収団体として登録し奨励金を受け、奨励金は自治会の会計を潤しています。

##### ④ 市民体育大会に参加

昭和六十一年、市民体育大会にはじめて参加しました。初参加ながら自治会对抗リレーに優勝する快挙を成し遂げました。大会に備えての練習が役立つたのでしよう。

##### ⑤ パレードに花車の参加



子供たちが一番ハッスルしたのは、昭和六十一年十月、新しく花車を仕立てて祭りのパレードに初めて参加したことです。

それまでは他地区のだんじりや花車を眺めるだけでしたが、今年からは、ハッピ姿でパレードに加わり、元氣いっぱい花車を曳き回しました。また町内を曳き回しました。

この花車の新調には関係者の並々ならぬご尽力がありました。

花車の本体は、大園地区の本崎さん奥さんの実家の斡旋で同地区の旧花車を五万円の廉価で購入して、台車の小型トラックを交換し、山崎さん(7班)の協力を得て、車体の塗装直し飾り付けして立派な花車に変身しました。パレードで一際目立つ花車は「飾り付け部門」で一位の評価を受けたこともあります。

##### ⑥ 年末餅つき集まり

昭和六十三年、ちびっ子広場での年末の餅つきの集いをスタートさせました。平成四年以降は自治会主催の会員総出の餅つきとなりました。

【野外活動など】

さらに野外活動も次のように都度どん  
どん実施されました。

① 浜寺公園ハイキング

(昭 33 年 3 月 31 日、4 年 7 月 28 日)

大縄飛びなどボール遊び、炊飯



② 天王寺動物園遠足 (昭 32 年 5 月 31 日)

浜寺公園からチンチン電車で天王寺へ



③ たこ揚げ大会を開催

(昭 33 年 1 月 10 日、昭 33 年 2 月 16 日)

お正月、鴨公園にて実施

市主催のたこ作りにも参加

④ 牛滝ハイキング

(昭 33 年 8 月 8 日、4 年 7 月 28 日)

川原でバーベキューや宝探し

当時ガールスカウトで活躍の高須  
賀姉妹から遊びの指導をいただき  
ました。

⑤ 潮干狩り (昭 33 年 5 月 29 日)

二色浜へ潮干狩りいきました。

⑥ 市民綱引き大会に参加

(昭 31 年 6 月 26 日、昭 33 年 7 月 3 日、4 年 6 月 30 日)

加茂小学校体育館または高中学校  
体育館で開催毎年参加したがいつも  
成績はいまひとつでした。



⑦ 大阪ガス科学館見学 (4 年 3 月 16 日)

館内でいろいろな勉強、体験をし  
ました

⑧ 中央公園の周りに花壇を作りました。

平成三年、当時中央公園の周りには花  
壇が無く、草ボーボーでした。これを  
花壇にしようと、市と交渉し、レンガ、  
土などの提供を受けて、みんなでレン  
ガを積み土砂を注ぎ込んだりして、花  
壇に仕上げました。市からの提供を受  
け花苗も植えました。公園の雰囲気か  
随分明るくなりました。その後、逐年  
手入れを続け、平成十年に公園愛護会  
にバトンタッチして今の立派な花壇に  
なっております。

【子供会その後】

昭和六十一年子供会発足以後会の指  
導運営に当たられた会長の方々は次  
のとおりです。

| 会長名(敬称略)     | 選出年           |
|--------------|---------------|
| 初代 中川潔       | 昭和 31 年(1986) |
| 第 2 代 野村建一   | " 32 年(1987)  |
| 第 3 代 南秀味    | 平成 2 年(1980)  |
| 第 4 代 杉谷治    | " 3 年(1991)   |
| 第 5 代 勝谷信二   | " 4 年(1992)   |
| 第 6 代 野村建一   | " 6 年(1994)   |
| 第 7 代 佐藤薫子   | " 7 年(1995)   |
| 第 8 代 野村弘子   | " 8 年(1996)   |
| 第 9 代 柴野雅子   | " 9 年(1997)   |
| 第 10 代 末岡依枝  | " 10 年(1998)  |
| 第 11 代 武内雅美  | " 11 年(1999)  |
| 第 12 代 藤原ひとみ | " 12 年(2000)  |
| 第 13 代 田中有紀  | " 13 年(2001)  |
| 第 14 代 小畦恵美子 | " 14 年(2002)  |

子供会は発足以来子供を中心に毎年い  
ろいろな行事を行ってきました。とりわ  
け最初の三年で会長はじめお母さん方  
献身的なご尽力で子供会の行事の骨格が  
出来上がりました。

以後、子供数はとりわけ平成には入っ  
てから減少の道をたどっています。その  
ため、花車はだんだん曳き手不足になっ  
たため、残念ながら高石祭りへの花車参  
加は平成十三年が最後となりました。往  
時の花車は現在、府所有の倉庫(府道泉  
大津美原線高架倉庫)を借用して保管さ  
れています。

さらに児童数、幼児数は減少の一途の  
ため、平成六年には子供部に改組し、さ  
らに平成十四年には自治会に併合し、子  
供会の従来の色な行事は自治会行事とし  
て継続して発展推進することになりました

た。

野村さんは子供会の生みの親、子供会  
初期の会長として会の発展に尽力されま  
した。感謝申し上げます。併せて永年、  
子供会の運営に献身的に携わってこれら  
れたお母さんたち厚く感謝申し上げます。

綾井南海住宅自治会 略年表

- 昭和 35 年 1・2 期分譲 8 所帯入居し  
「綾井南海住宅」発足する
- 昭和 36 年 地区内防犯灯設置する
- 昭和 37 年 広報「たかいし」の配布始まる
- 昭和 38 年 清高幼稚園開園
- 昭和 39 年 住居表示「加茂」制定される
- 昭和 40 年 「綾井南海住宅自治会」正式に  
発足する

(高石市市制発足)

- 昭和 43 年 清高小学校開校、校区変更
- 昭和 44 年 加茂小学校開校、校区変更  
加茂幼稚園開園
- 昭和 48 年 取右中学開校、校区変更
- 昭和 52 年 子供会発足する

- 花車新調、パレードに参加する
- 廃品回収、始まる

- 昭和 53 年 ラジオ体操始まる
- 夏まつり夜店、始まる
- 昭和 58 年 市民体育大会に参加する
- 平成 12 年 加茂中央公園開園祭開催される
- 平成 23 年 自主防災組織を設立する
- 平成 24 年 子供部、婦人部会を併合する